

県民一人ひとりの思いや願いを受け止めて「前」へ 県民対話 知事と語る やまなしづくり

この対話は、長崎知事が目指す「パートナーシップで進める県政」の一環です。知事が直接、幅広い層の県民の皆さんと意見交換し、それぞれが置かれている状況について理解を深めることによって、県としての課題を把握し、その解決に向けた取り組みを前進させていくことを目的に開催するものです。



県立やまびこ支援学校で行われた「知事と語る やまなしづくり」

パートナーシップで進める県政のために

「知事と語る やまなしづくり」で

は、その都度設定するテーマに沿って、意見交換を行います。県と県民は、県が掲げる「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」実現のためのパートナーであり、対話では、知事が参加者一人ひとりの声をしっかりと

と聞いています。

9月には「家庭での養育が困難な子どもの未来につながる支援」、11月には「障害児(者)と家族が安心して生活できる地域社会を目指して」障害児(者)を取り巻く現状と課題」をテーマに開催しました。

障害のある方とその家族が 安心して生活できる地域をつくりたい

11月22日には、大月市の県立やまびこ支援学校に知事が出向き、やまびこ支援学校PTAの皆さんと直接向き合い、日ごろの生活の中で抱える課題などについて意見交換を行いました。

参加者からは「県東部地域に障害児(者)が短期入所できる施設を増設してほしい」「子どもたちの可能性を伸ばす教育の場である、やまびこ支援学校を卒業した後、その可能性を生かす場がない。就労支援を行う事業所を増設してほしい」「就学前に



参加者の意見に答える長崎知事

受けられる各種サービスなどの情報が保護者に入りにくいので、情報提供の仕組みを考えてほしい」「災害が長期化した場合でも、安心して滞在



当事者としての率直な思いを伝える 貴重な時間となりました

「知事と直接お話ができる機会をいただき、ありがたいと思っています。行政もさまざまな取り組みをしてくれていると思いますが、これまで当事者の思いは届きにくい部分があると感じていました。簡単には解決しない課題もありますが、今日、知事に私たちの思いを直接聞いていただいたことがきっかけとなり、共生社会の実現に向けて、少しずつでも前に進むことを願っています」と、参加した皆さんは感想を話してくださいました。

「これらに対し知事は「短期入所について、まずは平成30年度から始まった高齢者施設を利用した共生型サービスの活用を促進していきたい。さらに県内だけでなく八王子や相模原などにある県外の近隣施設との連携も検討していく」就労支援を行う事業所の増設に向けて、事業者には最大限の支援を行う。また、障害者福祉に携わ

る人材の育成にも取り組み、市町村などの連携も図りながら、サービスの向上を目指し、障害のある人が地域の中で安心して生活できる環境づくりを進める」「未就学児を持つ保護者への情報提供について、利用者目線に立った仕組みづくりを進めるとともに、避難場所の確保も早期に実現できるように、県として最大限努力する」など、県東部地域における障害児（者）へのサポート体制のさらなる強化を進める強い決意を語り、この対話は共生社会の実現に向けた確実な一歩となりました。